

サポーターズカンファレンス議事録（要旨）

- ・日 時：2017年1月24日（火）19：30～20：40
- ・場 所：前橋市総合福祉会館多目的ホール
- ・登壇者：代表取締役社長 都丸晃
取締役ゼネラルマネージャー 菅原宏
ザスパクサツ群馬監督 森下仁志
- ・来場者：136名

■ 開会あいさつ

【都丸】こんばんは。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。昨シーズンはJ1ライセンス基準をクリアすることができ、また、選手寮を引っ越すことができました。選手を取り巻く環境は少しずつ改善できていると思っています。

これも皆様にチームを盛り上げていただいたおかげで、前橋市をはじめ、サッカー協会の皆様にもご理解いただけた、と思っております。まだまだ未熟ですので、一步一步、前に向かって進めていきたいと思っております。

今シーズンは、チームが発足して15周年にあたります。昨年の暮れには皆様に大変なご心配をお掛けしましたが、客観的に総合的に判断してチームスタッフを一新するという決断をさせていただきました。

新しく森下仁志監督を迎え、選手も総勢37名でスタートすることができました。引き続き皆様の応援をいただいてもっともっとスタジアムを盛り上げていただければと思います。サッカー専用スタジアム建設の署名活動も、今、前橋のサッカー協会の方で一生懸命取り組んでいただいております。

新体制のもとで15周年にふさわしい結果を残せるように頑張ってもらいますので、ご支援、ご指導のほどよろしく願いいたします。

【菅原】こんばんは。今日は森下新監督も出席しています。よろしくお願いします。

まず新チームですが、スタッフにはヘッドコーチを置いていません。森下監督が自らグラウンドに出てチームを引っ張ると言っていますので、彼が監督とヘッドコーチを兼務するような位置づけです。下増田グラウンドに来ていただいて、彼の情熱のある指導を見ていただければと思います。

今、クラブハウスにきちんと自分のロッカールームがあって、そこに荷物を置くことができます。監督は選手に対して、30分前にはグラウンドに立って準備するようになっていますので、選手たちは1時間前にクラブハウスに来て、室内で体をほぐし、トレーニングを始められます。

本当に素晴らしい環境を前橋市にはご用意していただき、選手たちが喜ぶ姿が見られてよかったですと思います。

トレーニングの環境が整い、そして体制も整備されつつある中で、あとは結果です。森下監督には、彼自身の考えでもあります2つのことを今、精力的にやっていただいています。

1つ目は若い選手が多いので2部練習をしっかりとやって鍛えてほしいこと。2つ目はいろいろな意味でチームに規律をもつことです。なぜ、そういうことが大事かと言いますと、群馬県内全部のチーム・選手がいずれ、「いつかザスパのチームに入りたい」と思うような、魅力のあるチームにするためです。

森下監督に「自分たちが使った施設は綺麗にしよう」「みんなでトイレを掃除しよう」と言ったら、監督本人も施設を大事にして、「自分たちが使うものを大事にすることが次に繋がる」と言っていました。とても信頼できる監督だと感じています。

ぜひ、森下監督を応援していただきたいと思います。

今年もよろしくお願いします。

【森下】皆さん、はじめまして、森下仁志です。今日はこのような時間に、寒い中足を運んでいただきまして感謝します。

まず、このザスパクサツ群馬が15周年ということですが、その中でたくさんの方たちやたくさんの方の思いやその方たちの勇気ある行動で、今のクラブがあると思っています。選手たちには、その歴史を絶対に忘れず、本当に応援してくれる皆さんの思いをピッチでまず表現することが恩返しであり、そして勝ち切ること、勝ち切れるチームになることが恩返しになると思っています。

そのためには選手に最初に言ったのは「チームを助ける」「チームのために走る」「サポーターの方たちに感動を与える」ということです。そういうチームになるためには、まず自分自身が強くならなければいけません。苦しい時があったら逃げるような人間だと、チームを助けることが絶対にできない。という話をしました。

まだ10日間ぐらいですが、若い選手も多いので、そういう部分から鍛えて見に来てくださった皆さんが「本当に戦っているな」「本当に走っているな」と納得していただけるよう、まずその部分を見ていただきたいと思います。そのベースがあって「どういうサッカーをするか」というのがあると思っています。

やるからには、この地域の子供たちやたくさんの方たちの誇りに思ってもらえるようなチームにならないといけないと思います。そして、たくさんの方の時間やお金を使っていただいて見に来てくださる皆さんのため、今年、大旋風を起こし、J1を目指し、それを達成することが本当の恩返しと思っています。とにかく1日でも、1年でも早く、その場所にたどり着けるよう、毎日全力で練習から試合以上の気持ちで毎日やり続けたいと思います。

ぜひ、応援よろしく願いいたします。

■ 質疑応答・意見交換

Q. 去年のGMとしての総括と、J1に行きたいという考えで、強くなった選手、活躍し

ていた選手が出て行ってしまえば J1 に上がれないと思うが、GM としての考えを教えてください。

A. 【菅原】 ご質問、ありがとうございます。

良い選手がチームから移籍してしまうということですが、私自身が直接大学や高校にスカウトに行く中で、「サッカー人生は短いから、やれるところでやってください」「魅力を感じるチームでやってください」「群馬ではこういうかたちでやっています」と言っています。

その結果、来てくれたのが 2 年前の江坂、昨年の瀬川、中村駿、山岸、今年の新卒の選手たちです。ですから、移籍の話があれば、「ここで残ってやってほしい」と強く言っています。

例えば、ある選手には「何年間か頑張って、ザスパで花を開かせ、キャプテンになって、チームを J1 に上げてくれ」と言い続けていましたし、オファーがあって、本人は本当に悩んだと思います。私自身も、自問自答しました。本人ともいろいろな話をして、最終的に本人が決断しました。

別の選手も、早くから「他チームからオファーがあったら教えてください」と話していました。実際に他チームからオファーがあり、ザスパも精いっぱい誠意を示しましたが、最終的に本人の決断で移籍が決まりました。

GM としての総括ですが、私は服部前監督に 3 年間やってもらいたいと思い、連れてきました。前監督を否定するわけではないですし、勝つために一生懸命やってくれたと思いますが、選手の育成やチーム全体の規律、目指すところという面で、私の考え、クラブの考えと違うかな、という認識でした。

J1 を目指すという気持ちは今でも変わりませんし、今年も、そういうつもりでやります。チームがスタートしたら、「まず 1 桁を目指そう」「次は 6 番以内にいこう」「次は 1 番になろう」ということが当然だと思いますし、昨年 17 番で終わってしまったことは本当に申し訳ないと思っています。

ですから、森下新体制が 1 月 11 日からスタートしましたが、1 番を目指してやっています。今年も 1 番を目指しますし、J1、6 番以内を目指し、一桁を目標にします。だから 16 番から上でいいでしょ、というのは私の中ではないです。

総括になるかわからないですが、その反省を踏まえて、新監督のもとで新しいスタートを切りたいと思いました。

Q. いつ選手を残せるのですか。

A. 【菅原】 全員、残りたいです。服部前監督も言っていましたし、森下監督も言っています。選手に本音で「残りたい」と思ってもらえるような魅力のあるチームにしていかなければと思っています。

エルシオコーチが来て、さまざまなトレーニングをやっていますが、細かい部分を含

めてリクエストがきています。お金もかかることなので、社長と相談しながら、選手たちが「このチームでまたやりたい」「このグラウンドで来年もやりたい」「正田でやりたい」というものを目指し、チームを少しずつ少しずつ変えていきたいと思いません。

Q. 強いチームをつくるとおっしゃっていますが、強いから魅力的というのは、また違うと思うのですが、県民から愛されるクラブっていうのを目指して欲しいと思っているので、県民から愛されるクラブになるためにはどのようなことを考えているのか、GMと社長にお伺いします。

A. 【都丸】クラブミッションで、一番目に私が掲げているのが県民に愛され、群馬を愛し、群馬に愛されること。二つ目に皆さんを含む群馬のサッカーファミリー、サッカー力を結集すること。三つ目に群馬をもっと元気にすることです。ですから、皆様に愛されるような、期待されるようなチーム、クラブを目指し、実行しています。

先ほどご挨拶で申し上げなかったのですが、一つの指標になる数字で言えば、私とGMが3年前に就任した時には1試合平均3,700人台、一昨年が4,100人弱、昨年が4,744人でした。もう一步のところまで年間のご来場者が目標でありました10万人に達成しませんでした。99,619人までできましたので、地域貢献活動を含めた地道な取り組みが少しずつ浸透していったのではないかと私自身は思っています。

そして、チームの結果に左右されない、魅力的なクラブにならなければいけない、と思いますので、「遅い」というご批判は真摯に受け止めますが、少しずつ着実にすそ野の拡大を進めてまいりたいと思っています。

A. 【菅原】私は3年前に就任しましたが、例えば、大学のリーグ戦や総理大臣杯、インカレを見に行ったら、3年前は大学関係者の方々に話を聞いてもらえませんでした。それから江坂や小牟田、川岸、瀬川が来てくれて、大学側にきちんとトレーニング費を支払い、少しずつ新卒選手の最初の年俸もアップしています。

今年のある新卒選手の場合、Jリーグのいろいろなところから声がかかっていましたが、監督に「群馬に来てほしい」と言ったら、本人と話をさせていただいて、本人が「群馬に魅力を感じています。江坂さんにしても瀬川さんにしても本当に出て活躍しているので、次は僕が行って活躍したいと思っています」と言っていました。そういう部分では少しランクアップができたのかなと思います。

「群馬に来て活躍したい」という選手がザスパに来て、一人二人残ってくれて、そういう選手が核になって、群馬の人に愛され、みんなで強くできるようなそういう仕組みが少しずつできてきたのかな、って感じます。

そして、皆さんとともに、関東で群馬だけがない、サッカー専用スタジアムの建設を実現したいと思います。専用スタジアムがあると、ザスパの選手たちももっと身近でファンの皆様が応援してくれる、叱咤激励してくれる。そういうものができることによっ

でもっともっと魅力のある、もっと応援してくれる、県民が一つになってやってくれるようなことに繋がると思っています。今、群馬県サッカー協会を中心ですが、署名活動を進めています。

内から外から魅力あるチームをつくっていきたいと思っています。

Q. 昨年の話になりますが、チームがキャンプから戻ってきて何人かの選手が違うところに行きました。契約解除になった選手もいました。ザスパの子として迎えた選手がキャンプでまとまって帰ってきたのに、そこでバラバラになってしまうというか、それでまとまるのかな、と思いましたが、どうなのでしょう。

A. 【菅原】試合に出られない選手をどう成長させるか、という課題は必ず出てきますので、すべての選手に対して、そうしたことを含めて話をし、契約しています。

そこで、去年は JFL であったり、関東リーグにであったり、少しでも試合に出られるところがあったら送ろう、そして週に何回かはザスパの練習に戻って、選手を見られる環境をつくろう、ということで実施しました。私は、若い選手が大好きですし、そういう選手に愛がないというのは一切ありません。

そうした話をした中で、「ここではできません」と出て行った選手がいますし、「選手を辞めて、第二の人生を頑張ります」と言ってきた選手もいます。本人と直接、そういう話でやってきていますし、自信を持って進めていますし、その中からプロ契約をつかんだ選手もいます。

今年もアマチュアの選手がいます。全員に同じ話をして「頑張ろう」と言っていますので、これからもそういうかたちで続けていきたいと思っています。

A. 【都丸】事前に寄せられた質問にも同様の内容があり、直接スタジアムで聞かれたこともあります。基本的には試合に出ることによるスキルアップ、実戦経験の積み上げというものがどれだけ大切か、ということです。

取締役会でも、クラブや選手の不利益にならないようにということで、こうした選手の移籍にあたっては、ザスパの練習にも参加可能な地理的環境や試合に出ることによる選手のスキルアップなどの問題が議論になり、理解していただいています。

Q. 森下監督にお聞きします。鳥栖時代はサポーターを集めるため、どのような思いでいたのでしょうか。

A. 【森下】サガン鳥栖は福岡に近いのですが、福岡には J チームがあるので、基本的には佐賀県内の県民の方、市民の方が占めていると思います。鳥栖も磐田も前橋より小さい市だと思うし、そういう市でもたくさんのお客さんが来ています。特にゴール裏は毎試合満員です。僕はいつも言っているのですが、昔からサッカーが盛んな前橋なので、自分たち次第でたくさんの方に来ていただけるのではないかと、監督のお話をいただい

た時に思いました。

1 試合平均のご来場者が約 4,700 人ちょっとと聞いて思ったことは、日本だと埼玉スタジアム、吹田スタジアムで、選手にプレーさせてやりたいという気持ちはすごくあります。なぜかというところ、そういうところでやると、特に若い選手が劇的に伸びるんですね。人に見られてやるというのは一番成長するところですよ。

5,000 人、6,000 人、10,000 人にするには、皆さんにお願いするのももちろん大事だと思っていますが、僕は「自分たちがどういう姿で皆さん方の前に披露できるか」「グラウンドで何をやるか」だと思っているので、本当に「お前らを応援したい」と思われるようなチームにしたいと思っています。

そうしたら、鳥栖のように「最後ロスタイムになったら点が入るのではないかな」と思ってもらえる雰囲気になって、今まで群馬はロスタイムの失点が多かったと聞きましたが、「ラスト 10 分は群馬の時間だぞ」と相手に思われるような走力をつけて、それを皆さんに分かってもらえて、また、それをゴール裏から応援してもらえるようなチームにしたいと思っています。そうすれば、熊谷の方も大宮に行くのではなくて、群馬に来ていただけると思っています。

ただ、やっぱり群馬はすごく厳しいと思います。1 時間ほどで浦和にいけますし、大宮にいけます。だからこそ、そのクラブを上回るような自分たちのスタイルをつくるために、今年 1 年かけてまず土台をしっかりと固めたい、と思います。

■ 閉会あいさつ

【都丸】長時間、大変有難うございました。私自身もすごく勉強になりました。皆様からいろんな要望とかアイデアをいただくことは、今後のクラブ経営にとってすごく大切なことと思っています。

しかし、これまでの歴史を考えると、今は一つひとつ目の前の課題を確実に解決することが先決で、この 3 年間、選手ファースト、チームファーストでやってきました。その結果、多くの方々のご支援、ご協力を受けて、選手寮の移転、財務基準やトレーニング施設基準の J1 ライセンス取得を実現することができたと思います。今後も、選手ファースト、チームファーストを軸に、フロントスタッフの待遇改善や育成の方にも少しずつお金を回して、経営基盤をつくりたいと思っています。

新監督を迎えて、今年には新たなスタート地点となります。皆様には、引き続きご協力、ご指導のほど、よろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。

以上